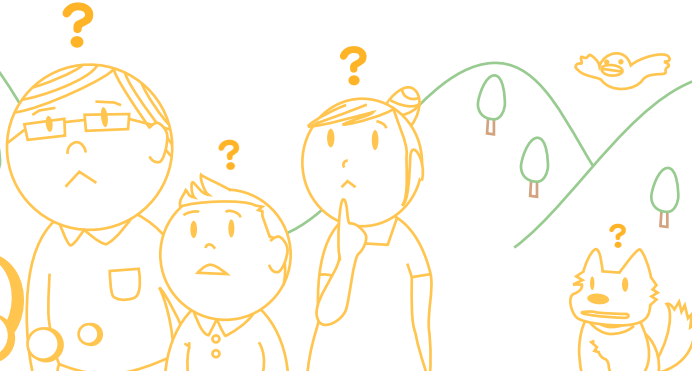


# クラインガルテンって なぁに？



奥多摩町<sup>うなざわ</sup>の海沢地区にクラインガルテンができました！  
「くらいんがてるん？」ピンとこない方、実は今、静かなブームみたいなんです。

## クラインガルテンってなぁに？

クラインガルテンとはドイツ語で小さな庭という意味で、賃貸の小屋(ドイツ語ではラウベ)付きの庭のことをいいます。利用者はここでいろいろな野菜や草木を栽培することができます。ヨーロッパでは古くからこのような施設があり、多くの人が休日を自身で借りているクラインガルテンで過ごしています。

## クラインガルテンのはじまり

ライプチヒ出身のシュレーパー博士は産業革命で過密化する都市部の貧しい子供達の心身の健康のためには遊び場が必要であると考えていました。彼の死後、この考えはハウシルスト博士に受け継がれ、1864年に最初の「シュレーパー・ガルテン協会」を設立、子供達の遊び場にも貧困を緩和するものにもなる家庭菜園が造られ、今ではヨーロッパ各地にこのような菜園を見ることができます。

## 各地に広がる グリーンツーリズムの波

グリーンツーリズムとは緑豊かな田舎に滞在して、自然や文化、人々との交流を楽しみながら休日を過ごそうという活動のことで、現在、自然環境の保全や文化基盤の充実、新しい産業を生み出すことで若者の定住化を促進するなど、地域の様々な活性化を目指して、グリーンツーリズムを推進する地域が数多くあります。一方で、都市生活者の中には田舎暮らしを望む人が増えてきています。そんな人達にとって休日だけ田舎暮らしを体験できるクラインガルテンはとても魅力的な施設。農村部にとっても休耕地などを有効利用でき、地域住民の農作物に関する貴重な知識を利用者に分け合うことで交流が生まれ、活気づく。そんなクラインガルテンはいま日本各地で開設され、募集枠を越える応募が集まるほどの人気になっています。

## ドイツと日本の クラインガルテン、同じ？

基本的には一緒でもやはりしくみや決まり事などは違う点もちらほら。右にいくつかまとめてみました。

	ドイツ
ラウベは	自分で設営
ラウベには	原則として宿泊禁止
利用期間は	25年～無期限
管理運営は	利用者団体の協会

	日本
もともについている	宿泊OK
長くて5年以内	開設者

## おくたま海沢 ふれあい農園に 行って来ました



おくたま海沢ふれあい農園も奥多摩町のグリーンツーリズム計画の一環として設営され、今年2007年4月にオープンしました。周りをぐると山が見渡せる同園は管理棟と、10棟のクラインガルテン、25区画の日帰り型農園、摘みとり農園からなります。農園は管理スタッフはもちろん、地元住民によって運営・支援されていて、利用者の心強い味方になっています。月に1度の菜園講習会やそれ以外でもわからないことがあった時は、野菜作りのアドバイスをしてくれます。また、料理講習会などのイベントの企画も行っています。周辺の福祉施設とは、できすぎた野菜等を施設で飼っている鶏のえさとして提供することで、畑の肥料になる鶏糞を頂いたりエコロジカルな循環ができています。

残念ながら10棟のクラインガルテンはすでに満室ですが、日帰り型農園はまだ空きがあります(2007年9月現在)。摘みとり農園は果樹はまだ小さいので2、3年後からオープンする予定で、こちらもただ摘みとるだけじゃない、楽しい体験を試行錯誤中とか。楽しみに待ちましょう。管理棟で行っている郷土料理などの料理講習会(月1回)は事前の申し込みで誰でも参加することができます。そば打ちやジャム、おやき作り…ものによっては収穫から始めるなんてものもあって、まさに農園ならではの料理教室。農園を借りたいと思っている人はまず料理教室に参加してみるのもいいかも。



上大/おくたま海沢ふれあい農園のクラインガルテン。上小/管理棟は、屋根が高くて広々。農園利用者と地元住民の交流の場になっています。中/日帰り型の農園はちょっと傾斜があります。下/摘みとり農園のオープンも楽しみ。